



女性が選ぶ  
活躍の舞台

## 日々の努力が未来に様々な可能性をもたらす その確信こそ、やりがい

東洋紡株式会社総合研究所 檜垣綾乃 さん



【檜垣さん】大阪府出身。大学時代は農学部で森林科学を学び、大学院を経て2014年に東洋紡入社。

### Data

#### 東洋紡株式会社総合研究所

滋賀県大津市堅田2-1-1

077-571-0001

<http://www.toyobo.co.jp/>

職員数 748人(男性445人、女性303人)

業種 研究開発

- 女性活躍推進認証企業  
(二つ星企業滋賀県27認証第13号)
- 当社の持つコア技術、技術ストックを基に高機能製品の開発を通して21世紀の生活文化を担う魅力ある会社を目指しています。



### 世界の水環境を変えていく仕事

これからの社会や環境に起こりうる変化を想定しながら、必要になるものを考えていく、それが東洋紡総合研究所コーポレート研究部門の役割です。人々の健康や命の問題につながる「安全な飲料水の確保」もテーマのひとつで、私は水処理に関する「膜」の基礎研究に携わっています。水不足の解消など大きく期待される分野ですが、まったく新しいものをつくろうという視点で取り組みを進めているため、出口が遠いことも確か。でも、この研究がいつか世の中の役に立つと思うと、おのずとやる気もわいてきます。

実験してデータを取ることにについては大学でもやってきたことですが、会

社として取り組んでいる以上、最終的には売れる製品にしなければなりません。モノとして完成し、みんなの役に立つことで初めて研究の意味が出てくることが社会人になって学びました。

### 男女ではなく個性を活かす仕事

仕事に女性ならではの視点や考え方が求められていることは、社会的な動きとして感じています。ひとつのことをじっくり考えたり、地道にデータを集めて評価したりまとめたりすることは個人的には得意としていますが、それが女性ならではのものであるとは思っていません。男性だから、女性だからではなく、「私」を活かしてくれる職場だと思っています。

### 母の影響で理系に

全国的にみると研究職に就く女性はまだまだ少ないようですが、個人的には教育の影響だと思っています。子どものころのおもちゃをみても男児向けは工学的ですからね。うちは二人姉妹ですが、母が科学好きで、テレビのサイエンス番組をいつも「面白い」と言いながらいっしょに観てくれた、それが理系への入り口になりました。受験や進路を考える時期と重なった90年代は、とくに環境問題への警鐘が鳴り響いて

いた時代でしたので、やはり社会の役に立ちたいという思いから森林科学科への進学を選びました。水や大気などの環境保全に果たす森林の役割を学ぶことから、林業資源を利用した生分解性プラスチックの研究まで、理系ならではの面白さがそこに盛り込まれていました。

### ライフイベントと向き合いつつ スキルアップを目指す

いまは自分のスキルを広げて先輩のように仕事ができようになりたいという思いでいっぱいです。一方では、結婚も間近ですし、子どももほしいと思っています。一時的には仕事も停滞するでしょうから、今のうちにいろんなことを吸収しておくつもりです。産まれたら育休をはじめとした制度も利用させてもらって、小学生、中学生と子どもの成長に応じて、また現在のように仕事に集中できるようにしていきたいと、パートナーとも話し合っています。

これからはますます女性が働きやすい環境になっていくと思います。チャンスもたくさんめぐってくるはずですが、それをつかもうと努力し、そのたびに成長していける研究員を目指します。



東洋紡株式会社総合研究所